

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	高知県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	窪川町立窪川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	27
児童数	57	55	51	60	60	43	3	329	

研究の概要

1. 研究主題

『確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする子どもの育成』
- 算数科を中心に -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年：全学年

教科：算数科

理由：本校ではこれまで、算数科計算力を中心に基礎学力の定着・向上をねらい、児童の実態把握のための計算力診断テストを実施し、その結果をもとに、児童のつまづきを克服させ、学習意欲の向上を図ることをねらいとした加力指導を行ってきた。到達度把握テスト（CRT）の結果をみても、計算力においては、通過率81.8%とほぼ定着してきていると言えるが、数学的な考え方や重さ、面積、図形などの表現・処理には課題があり、一人一人の学びをより一層確かなものにしていく必要があると言える。子どもたちの学びを「確かなもの」にするには、学校教育において知識を獲得することはもとより、自ら学び、自ら考える自己学習力をつけていくことが重要である。

そこで、上記テーマを設定し、基礎・基本の定着を図るとともに、学習活動に主体的・創造的に取り組み、問題解決力を身につけ、学んだことを生活や地域社会の中で行動に生かすことのできる『確かな学力』を自ら高める子どもを育てるために、算数科を中心に他教科との関連を図りながら研究を進めていくこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	検証と学びの年	他からの実践を学びながら、これまでの本校の取り組みを検証し、新たな窪川小学校の方向を決める。
	研究の内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">少人数指導のあり方の研究</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">T・T指導のあり方の研究</div> </div> <p>基礎学力の向上（基礎的・基本的な内容の定着）、子どもの個性に応じたきめ細かな指導方法や学習形態を工夫する。</p>

加力の時間（元気100倍タイム）のあり方の研究

補充的な学習や発展的な学習など個に応じた学習内容を工夫する。

習熟度別学習，課題別学習，領域別学習など学年単位で学習内容を決める。

水曜日5校時（2：00～2：45）に設定

年間（18時間予定）

研究経過・計画

学期	月	研究内容等
1	4	研究計画立案（研究主題、研究体制、研究計画、研究内容、方法等） 年間指導計画，教科経営案作成
	5	重点指導教材検討 到達度診断テスト実施
	6	授業研究〔5年〕研究協議【講師 中部教育事務所 久寿，久保田指導主事】 （少人数指導のあり方の研究）
	7	1学期の研究まとめ
夏休み	8	校内研修会 【講師 高知大学 平井助教授】 到達度診断テスト結果分析 研究計画検討
	9	研究計画・研究実践内容・児童の実態等の説明会【PTA】
2	10	授業研究〔1年〕研究協議 【講師 中部教育事務所 西森指導主事】 （少人数指導，T・T指導の実践事例研究）
	11	先進校等への視察研究 授業研究〔3年〕研究協議 【講師 中部教育事務所 久保田指導主事】 （習熟度別学習の取り入れ方研究）
	12	校内研修会 【講師 岸本裕史 教育士】 2学期の研究のまとめ
3	1	評価方法等の検討
	2	本年度の研究成果や課題を踏まえた実践の検討会
	3	次年度の研究計画立案

学びと実践の年

学んだことを自分の実践に重ねていく。

研究主題

『確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする子どもの育成』
- 算数科・総合的な学習を中心に -

研究の内容

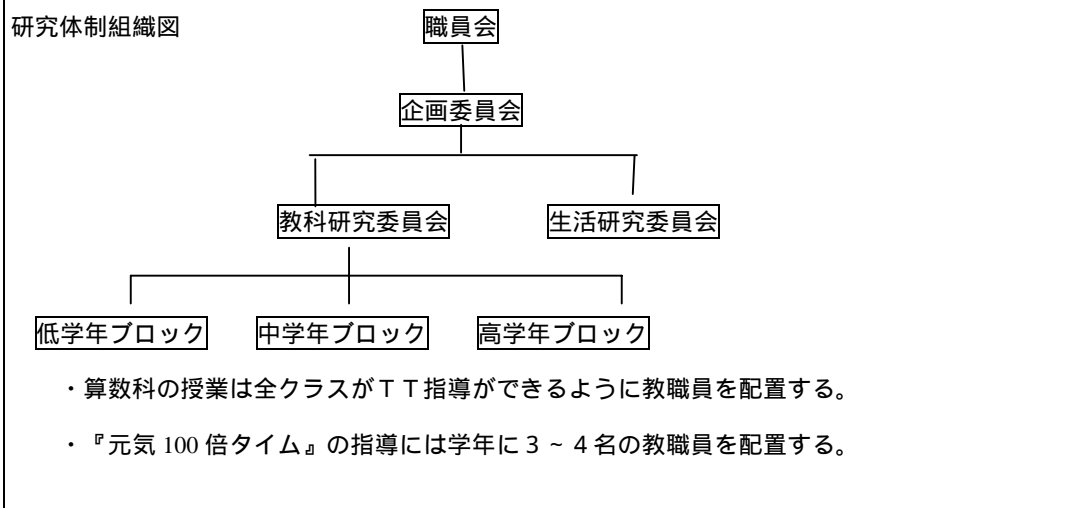
- ・算数科授業のあり方（少人数・T T指導）
- ・元気100倍タイムのあり方（習熟度指導）
- ・算数科学習を絡めた総合的な学習のあり方

平成16年度

研究実践計画

学期	月	研究内容等
1	4	研究計画決定（研究主題、研究体制、研究計画、研究内容、方法等） 年間指導計画，教科経営案作成 到達度診断テスト実施
	5	研究計画・研究実践内容の説明会 【PTA】 重点指導教材検討
	6	授業研究・研究協議 【要請訪問】 到達度診断テスト結果分析
	7	児童の実態等の説明会 【PTA】 1学期の研究まとめ
	8	校内研修会 【講師招聘】 研究計画検討
2	9	教材検討会
	10	指導案検討会 【要請訪問】
	11	研究発表会 【要請訪問】【PTA】
	12	校内研修会 【講師招聘】 2学期の研究のまとめ
3	1	研究の方向性検討会
	2	本年度の研究成果や課題を踏まえた実践の検討会
	3	次年度の研究計画立案

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ T T 指導を通して、担任一人では気づかない児童のつまずきを、確認し合いながら授業を進めることができた。
- ・ 自力解決が難しい児童や理解するまでに時間がかかる児童に2人の指導者が対応できるため、児童一人ひとりに細かな指導ができた。
- ・ 少人数指導を行ったことにより、発表等に消極的だった児童がどんどん積極的になり、多人数になっても発表するようになってきた。
- ・ 教師間の打ち合わせや授業後の反省を行うことにより授業改善に生かした。
- ・ 講師を招いての研修会をこれまでより多くしたことにより、指導方法に幅ができ自信につながった。

2. 今後の課題

- ・ T T 指導，少人数指導担当の教師が複数学年を担当するのは、打ち合わせ等の時間確保が難しかった。
- ・ 児童の学習への意欲は感じられるようになったが、自分から進んで学ぼうとするまでの意欲付けには到らなかった。
- ・ 指導方法の工夫・改善はされたが、目指す子ども像や授業像が明確でなく統一感がなかった。
- ・ 算数科の指導を中心に研究を進めてきたが、来年度は総合的な学習の時間の活用も含めた研究計画を考えていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

観点別到達度学力検査（CRT）

（目的）

- ・ 絶対評価表による検査であり、他人の成績と比べるのではなく、教育目標の到達度をものさしにして、どの程度の到達度であるかという個人の成績の絶対的位置を明らかにする。
- ・ 分析結果をもとに今後の指導の改善に生かす。

（実施内容）

- ・ 国語科，算数科《前学年の内容》

（実施時期）

- ・ 5月下旬～6月上旬

（取り組み）

- ・ 夏季休業中に結果分析
- ・ 9月に保護者に対する説明会
- ・ 12月個人票配布

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研修会

日時：8月7日 場所：窪川四万十会館多目的ホール
 対象：窪川小学校全教員と町内小中学校教職員
 講師：高知大学 平井貴美代 助教授
 目的：算数科における指導方法（T・T，少人数指導）についての研修を深める。
 内容：講話『少人数指導とT T指導のあり方』
 指導・助言『算数科教材研究（指導計画作り）』

研修会

日時：12月3日 場所：窪川四万十会館多目的ホール
 対象：窪川小学校全教員と窪川小学校保護者及び町内小中学校教職員
 講師：岸本裕史 教育士
 目的：基礎学力の向上を目指した指導方法について研修を深める。
 内容：模擬授業
 講演『子どもの学力を伸ばす - 学校・家庭の役割 - 』

研究発表会予定

期日：平成16年11月5日

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | |
|----------------------|------------------------------|-------------------|--------------------------|
| 【新規校・継続校】 | レ 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
レ 13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 | |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導
一部教科担任制 | レ T・Tによる指導
その他 | |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | レ 算数
図画工作
理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | レ 有 | 無 | |